

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：しなの福祉教育総研	所在地：長野県上田市上田180-6
評価実施期間： 令和7年5月16日から令和7年10月27日 *契約日から評価結果の確定日（通常、評価結果報告会日）まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050431.B18062.2020065	

2 福祉サービス事業者情報（2025年6月現在）

事業所名：ポピンズナーサリースクール軽井沢風越（施設名）		種別：認可保育所
代表者氏名： （管理者氏名）荒谷 友佳		定員（利用人数）： 70 名（ 65 名）
設置主体：(株) ポピンズ 経営主体：(株) ポピンズエデュケア		開設（指定）年月日： 2023 年 1 月 23 日
所在地：〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町発地1216-12		
電話番号：0267-41-6831		FAX 番号：0267-41-6831
電子メールアドレス：karuizawa-kazakoshi@poppins.co.jp		
ホームページアドレス：http://www.poppins.co.jp		
職員数	常勤職員： 14 名	非常勤職員 2 名
専門職員	（専門職の名称）	子育てサポーター2名（保育士・調理）
	施設長1名看護師1名	
	栄養士3名保育士9名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6・休憩室1・アトリエ1・ 来客室1・事務室・遊戯室	調理室・調乳室・ユーティリティ（トイレ・ 沐浴台・シャワー・洗濯室）砂場・木製遊具・

3 理念・基本方針

【本社理念】 働く女性を最高水準のエデュケアと介護サービスで支援します 【保育園理念】 人生で最も重要な時期の人間教育を目指します。 （人生で最も重要とされる乳幼児期において、養護を基盤とした教育を通じて子どもの最善の利益に資する保育を行う） 【保育基本方針】 1. 寛容な人間 2. 聡明で愛情深い人間 3. 探求心の旺盛な人間 4. グローバル社会で活躍できる人間
--

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

○軽井沢は、標高1000メートルの高原に広がり、美しい自然に恵まれた歴史深い地域です。古くから宿場町として栄え、その後は冷涼な気候と、都会からのアクセスの良さなどから、国内有数のリゾート地として発展を続けています。

当園が位置する発地地区は町の南東部に位置し、のどかな田園風景と豊かな自然が広がる地域です。近隣には風越公園や学園、大きなグラウンドなど、教育に関わる施設が多いことも特徴です。

○軽井沢地域では、親のリモートワークやこどもの教育のための「教育移住」が増えたことなどによる「子育て世代の増加」から、保育園ニーズが高まっていました。ポピンズナーサリースクール軽井沢風越は、ポピンズグループとしては長野県初の認可保育園として23年1月に開園しました。軽井沢町としても49年ぶりの大型保育園です。

○企業理念として「働く女性を最高水準のエデュケアで支援する」と掲げ、保護者が納得し、安心して預けることができる環境を整備しています。

- ・世界の未来を担うこどもたちにどのような経験が必要か、という視点から独自の教育方針としてエデュケーション（教育）＋ケア（保育）を実施しています。世界最先端の幼児教育や脳科学を積極的に取り入れたポピンズアプローチを開発し、保育プログラムと環境を提供しています。
- ・園舎は、ポピンズ保育園の特徴である木材を使い、木造でありながら木の葉をイメージした外観となっており、デザイン曲線を生かしてこどもたちにも快適で安全性の高い建物となっています。内装にも様々な工夫がされ、グラウンドピアノのあるホールと各保育室には仕切りがなく、木の列柱によりゾーンが分けられています。こどもたちがいつでも自由に動き回れる一つの大きな空間となっており、異年齢交流も自然な形で活発に行われています。

（当園舎は日本デザイン振興会のグッドデザイン賞を受賞しました）

- ・ポピンズプラスとして、英語やリトミック、オムツやタオルサービスなどの提供があります。荷物が多くなりがちな（特に未満児）朝の登園準備に、荷物を最小限にでき助かっている、との保護者の声がありました。
- ・誕生日会は子ども一人ひとりの誕生日当日に行っています。年長児は保育参加や給食試食会も行い、保護者も一緒に祝ったり安心して園の様子を理解したり、と好評です。

○特別保育事業計画があります

- ・延長保育を実施しています。最大19時30分まで保育を延長でき、こどもの活動に沿って、未満児と3歳以上児を分けて保育ができるよう工夫しています。18時30分過ぎには補食を提供しています。
- ・障がい児保育を行い、関係機関と連携して個別カリキュラムを作成しています。支援が必要な子どもを担任だけではなく、チームとして保育し、園内にできるだけたくさんの居場所をつくれるよう毎月のケース会議で話し合いをしています。
- ・地域子育て支援センター事業に取り組んでいます。園庭開放や土曜日コンサートなどを計画して、子育て相談に応じたり、保護者同士のつながりの場としたり、と地域に開かれた園を目指しています。軽井沢の地域性を生かした当園独自の計画も準備しています。

○夏季一時預かり保育を実施しています

- ・長期休みを軽井沢で過ごす家庭などに向けて、一時預かり保育を実施しています。豊かな自然の中で過ごす経験により軽井沢の魅力発信にもつなげています。

○ITシステムを活用しています

- ・登降園の時間の管理や職員の勤務時間の管理などを正確に行うことができます。
- ・保護者と園との連携がスムーズで、園でのこどもの様子なども視覚的に共有できます。情報管理も適切に行っています。
- ・職員の事務時間、書類等の管理の効率化が期待でき、こどもとのかかわりの時間確保やゆとりにつながっています。

○組織としての人材確保体制が整っています

- ・メディアを通じてのスタッフ募集を定期的に発信しています。園が目指す理念や方針の明記、勤務条件についてもわかりやすく説明されて、「ここで働いてみたい」と思えるような募集をしています。
- ・社宅制度があり、地元出身でなくても安心して働けます。移住も可能です。当園スタッフの半数も移住者です。

- ・園長は、さらに当園独自の実情を把握し、よりよい環境を整備できるよう検討を重ねています。
- 本物に触れることができ、安心安全な環境です**
- ・ホールにはグランドピアノを配置し、保育室の窓の大きさや位置、大人の概念などを押し付けない壁の色（基本的に白）、ドアの取手や家具の面取り加工、ソフトクロス、床暖房や保育室の調光など、こどもたちが安心して快適に過ごせる環境です。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	初 回
---------------	-----

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

○子どもの主体性を大切に育てる保育をしています

- ・職員は十分な研修や手法を学んだうえで、こどもたちが自分で考えたり、自分で選択したりできるような生活と遊びの場を工夫して、設定をしています。戸外遊びや室内遊びなども含め、こどもが決める、という過程を大切にしています。
- ・園では、年齢に合わせた玩具や、興味に添える知育玩具のほか、絵本や園内の装飾、こどもの興味を引き出して自発的な行動を促すようなスペース、コーナーなど細部にもこだわった環境づくりに取り組んでいます。
- ・職員は互いに連携しながら、一人ひとりのこどもの自由な発想を尊重し、こどもが自ら「やってみたい」「これは何だろう？」という思いで遊びを見つけていく過程を大切にしています。「これ作ろう」ではなく「これ、作れるよ」という環境設定、生活や遊びなど様々な場面で、こども同士が力を出し合う、対話する、学び合って育っていくという経験を大切にしています。こどもたちには、主体的な活動を通して達成感や自己肯定感が育つよう励まし、その言動を認める働き掛けをしています。
- ・職員は、こどもたちが活動する様子を見守りながら、どんなことに関心をもち、どんな経験が必要かを、どもの姿や保育記録で把握し、次への環境作りをしています。こどもに対しては、決して否定的な言葉は使わないこと、「どうしたい？」などやる気を育てる言葉がけをするとともに、言葉だけではなく、こどもの目が輝く瞬間を見逃さず、こどもの表情からも思いを読み取るようにしていました。一人ひとりのこどもを様々な角度からとらえ、その子がその子らしくいられる場所を目指しています。

○研修体制を整え、保育の質の向上を目指しています

- ・組織として様々な研修制度があり、園長は一人ひとりの職員に必要な研修や、スキルアップのための研修に参加できるよう保育態勢を整備しています。研修に参加した職員は学びを生かして自身の保育につなげるとともに、園内でも共有し、園全体での保育の質の向上に努めています。
- ・園はまだ開設したばかりであり、経験年数が浅い職員もいることから、上下関係にとらわれず、互いに話や意見交換がしやすい雰囲気があります。月に一度のスタッフミーティング、ケースカンファレンスも含め、園内研修等も前向きで、職員の一体感があります。園長もシフトに入るなど、全職員が同じ目線で、協力体制が整っています。
- ・どの職員もこどもや保護者に寄り添う姿勢があり、園の特色を生かした、当園オリジナルのプログラムも準備中です。
- ・職員は保育士としてだけではなく会社の理念に沿いながら、一社会人としての姿勢も身に付けています。こどもは大人の姿を見て育つ、ということも意識して、常に言葉使いや身だしなみ、表情や態度にも気を付けています。

○ポピンズ独自の教育・保育のプログラムが整い、様々なアプローチから保育を進めています

- ・ドキュメンテーション手法の教育アプローチを実施しています。こどもたちの活動を具体的に記録し振り返ることで、職員の情報共有ができ保育の質の向上につながっています。保護者もまた、こどもたちの様子が見えることで安心感をもち、職員とのコミュニケーションも円滑になっています。
- ・「知力8」として、こどもの知力と脳の機能部位との関連性に視点を置き、一人ひとりのこどもの個性とともに、知力のバランスを見極め、もって生まれた力がさらに伸ばせるよう働きかけています。
- ・日々の活動の中で「SDGs」教育を取り入れて、こどもたちと社会とのかかわりを大切にしていま

す。廃材を利用した制作など、楽しく活動する中で、物を大切にする心を育て、支え合う持続可能な社会をこどもたちとともに目指しています。

- ・「多文化教育」をカリキュラムに取り入れています。自分の国や住んでいるところを知る、ということから始めて、世界のいろいろな国に関心が持てるように、様々な分野の絵本、写真集や図鑑、絵画なども配置してこどもの興味を引き出しています。多様性を育むために肌の色が違う人形を置くなどの工夫もし、視野を広げることに努めています。
- また、園内で唯一仕切りを設けた「海外とつながる部屋」が用意されています。3歳以上児を対象に月に一度、その月毎に設定した国の様子を大きな映像で観たり、その国の食事を経験したり、簡単な挨拶言葉を言うてみるなど、関心を高めるような活動を意図的に展開しています。
- ・この他にも、アートプログラム・英語プログラム・運動プログラム（けがをしない体をつくる、運動能力を引き出すプログラム）なども実施しています。
- ・食育を大切にしています。こどもが生きるために重要な食について、指導計画の中でも重点を置き、野菜作りなどの実体験や食材に触れる経験、調理員の話聞いて献立に関心を持つ、陶器の食器にこだわる、などの工夫がありました。

○職員が働きやすい環境を整備するよう園としての工夫があります

- ・園長は毎日、保育の現場に入りながら、こどもの様子、保育活動の様子、職員の様子を把握しています。そのうえで、課題を明確にし、保育態勢を整えたり、事務業務の工夫を行ったりすることで、人材確保が難しい中でも有休消化や振替休を希望日に取得することを可能にしました。また、休憩時間の確保もしっかりと行っています。
- ・新設園であることから、まだ必要な環境整備があることを認識し、整理しながら園運営をしています。園長は常に本部と連携し、積極的に提案、忌憚のない意見も伝えて、こどもにとっても職員にとっても快適な環境となるよう取り組んでいました。

◇特に改善する必要があると思う点

○生活の場としての環境をより快適にしていく工夫を期待します

- ・開放的で細部にもこだわりのある機能的、画期的な園舎です。園長からは「開園3年目にして、やっと、園舎の構造をより有効に使いこなせるようになりました」というお話も伺いましたが、さらに工夫が必要との認識もあるようです。評価者も園内を見学させていただき、新しく斬新な発想に目を見張ると同時に、こどもの生活の場、という観点からは、開放的なゆえに、ややこどもたちの声の響きが気になる場所でもありました。年齢ごとの静的な活動時、未満児と3歳以上児との生活リズムの違いなどから開放的なつながりと同時に、小さい集団での、集中したい活動などを充実させていくための園舎の使い方を、職員の皆さんでさらに検討、工夫されていくことを期待します。

○地域との連携がより深まることを期待します

- ・保育園の専門性を生かした子育て支援を行っています。継続していくことで、保護者同士が知り合い、どこかでつながっていくことは、地域という視点で捉えると、とても有効です。軽井沢という地域に根差した保育園として、地域の実情に添い、子育てしやすい地域づくりを担う役割への期待が高まります。
- ・地元小学校との連携がより進むことが望まれます。こどもたちは卒園したら終わり、ではなく育ちはその後も続いていきます。卒園後も地域のこどもとして切れ目のない支援が必要ですので、進学先の学校でなくても、学校との交流を深め、スタートカリキュラムやアプローチカリキュラムの内容を検討し合うなど、教職員と保育士の連携も大切です。
- ・子育て支援など園の利用者等だけではなく、地域の方々との交流を深めることが期待されます。新規開園した保育園が地域に関わっていくことは時間もかかり、難しい面もあると思います。が、園でも課題として掲げていますので、様々な機会を捉えて地域との関わりを深め、園長だけではなく保育士自身が地域を意識し、積極的にコミュニケーションをとりながら連携を進めること、その結果として、地域に開かれた園となり、新設保育園に対しての理解や信頼がますます得られることを期待します。

○本社との連携がよりスムーズに進むことを期待します

- ・園長は、本部に園の様子をきめ細かく報告し、相談や課題解決を図っています。地方ならではの事態を把握してもらうことには限界もありますが、地域との連携一つをとっても、園の体制を整えることは欠かせません。また、近隣に姉妹園がないことも応援体制を整えたり、職員同士が交流して経験不足を補い合ったりすることができにくい状況です。園長は本部との連携を密にと

り、改善に向けた取組を進めていますので、今後もよりスムーズに運営が進み、本部が当園の状況把握をより一層深めて、園長が目指す、質の高い保育、妥協しない向上心が当園の強みとして広がることに期待をしています。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

- ・ 共通評価項目（別添 1）
- ・ 内容評価項目（別添 2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添 3－1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添 4）